

メトロポリタン・フロイデ・コア東京
(MFC東京)第13回定期演奏会

W.A. モーツァルト

《雀のミサ》

Spatzenmesse C-dur K.220

《レクイエム》

Requiem d-moll K.626

W.A. Mozart
(1756 - 1791)

バロック歌曲名曲選

G.F.ヘンデル:《オンブラ・マイ・フ》

《私を泣かせてください》

A.スカルラッティ:

《陽はすでにガンジス川から》

A.カルダーラ:《親しき森よ》



Takeshi Sumi
Conductor

ソプラノ
山田 英津子

メゾ・ソプラノ
小嶋 康子

テノール
牧野 成史

バリトン
小島 聖史

合唱
MFC東京 (合唱指揮:小島聖史)

所沢バッハアカデミー
横浜モーツァルトアカデミー
(合唱指揮:牧野成史)

管弦楽
東京ニューシティ管弦楽団

オルガン
栗島 和子

指揮
角 岳史



Etsuko Yamada
Soprano



Yasuko Kojima
Mezzo Soprano



Seiji Makino
Tenor



Kiyoshi Kojima
Baritone



Kazuko Kurishima
Organ



Metropolitan Freude Chor Tokyo
Chorus

Metropolitan Freude Chor Tokyo

2012.10.17 水 18:00 ロビー開場
18:15 客席開場
19:00 開演

東京芸術劇場コンサートホール(大ホール)
池袋駅西口すぐ

JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結しています。

お申し込み・お問い合わせ ■ MFC東京合唱団事務局 TEL & FAX 042・519・2465

*未就学のお子様のお断りいたします。

*やむを得ない事情により出演者または曲目の一部が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

全指定席

SS席: 5,500円

S席: 5,000円

A席: 4,500円

B席: 4,000円

C席: 3,500円

D席: 3,000円

車椅子席: 2,000円

(介助者1名を含む・要予約)

メトロポリタン・フロイデ・コア東京 (MFC東京) 第13回定期演奏会



山田 英津子 (ソプラノ) Etsuko Yamada: Soprano

横浜生まれ。桐朋学園大学声楽専攻卒業。同大学院研究科修了。平成9年度文化庁国内芸術インターンシップ研修員。第13回日本声楽コンクール第1位。奥田良三賞、日本R.シュトラウス協会賞、東京都知事賞をあわせて受賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。ヘンデル「メサイア」ハイドン「天地創造」四季「ハウケン・ミサ」モーツァルト「レクイエム」グレート・ミサ「ハ短調」ベートーヴェン「第九」狂歌ミサ「フォーレ」レクイエム「ブーランク」グロリア「ラインベルガー」レクイエム「ブラームス」ドイツ・レクイエム「グノー」聖ニコライア「聖ニコライ」ドヴォルザーク「スターバート・マーテル」R.シュトラウス「4つの最後の歌」マラー「交響曲第2番」「交響曲第4番」等、コンサートソリストとして数多く出演。オペラではラヴェル「子供と魔法」王女役、モーツァルト「フィガロの結婚」サザンナ役、J.シュトラウス「こうもり」アデーレ役、ヴェーバー「魔弾の射手」エンヘン役、オルフ「カトゥーリ・カルミナ」レスピア役、「アフロディーテの勝利」花嫁役等に出演。2009年6月には新作・初演のモノ・オペラ「ケ・セラ・セラ」で、いいから!?」でひとり舞台上に初挑戦。CD「アヴェ・マリア」マドンナの宝石「Grace Voice」をリリース。現在、横浜音楽文化協会会員、二期会会員。



小嶋 康子 (メゾ・ソプラノ) Yasuko Kojima: Mezzo Soprano

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院オペラ科修了。二期会オペラスタジオ第34期研究生修了。伊豆山教恵、木下武久、木村宏子の各氏に師事。94年より2年間ドイツ留学、ユリア・ハマリのもとで発声法を中心に研鑽を積む。「フィガロの結婚」マルチェリーナでオペラデビュー。以来、気品ある演技と歌唱で定評がある。またベートーヴェン「第九」をはじめ、バッハ「短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、ヴィヴァルディ「グロリア」、モーツァルト「レクイエム」戴冠ミサ、デュプレ「レクイエム」、ロッシーニとドヴォルザークの「スターバート・マーテル」等、多数の宗教曲のソリストをつとめる。その他多くのコンサートに出演し、96年、ドイツ・ラインガウ音楽フェスティバルや、99年暮れのウィーン楽友協会大ホールでの「第九」、01年ドイツ・ブレーメンでの「第九」、02年、ハンガリー国立歌劇場にて開催された夏のオペラ・パレフェスティバル「ブダペスト」のモーツァルト・ガラにおけるオペラ・アリアと「レクイエム」、03年、チェコ・プラハのスメタナ・ホールでのドヴォルザーク「スターバート・マーテル」、06年、オーストリア・ザルツブルクのモーツァルト・テウム大ホールとチェコ・プラハのエステート劇場でのモーツァルト「レクイエム」& オペラ・ガラ」の各公演にはソリストとして出演し、高い評価を得る。今年1月には初リサイタルを開催。ポピュラーからジャズまでジャンルを広げ、大手のホテルのディナーショー等へも活動の幅を広げている。昨年CD「遙かな時間(とき)を超えて」をリリース。現在、二期会会員。



牧野 成史 (テノール) Seiji Makino: Tenor

武蔵野音楽大学、オーストリア国立モーツァルト・テウム音楽大学を経てスイス、バーゼル音楽大学、同大学院を最優秀で卒業。声楽と室内楽のディプロム並びに、国家演奏家資格を取得。声楽をクルト・ヴィドマー、合唱指揮をヤーン・ツィフラの諸氏に師事。1984年日本人として初めてザルツブルク大聖堂の専属歌手としての名誉を得て、現在に至る。1986年ハンブルク国立歌劇場と歌唱契約を結び、89年南東バイエルン州立歌劇場、92年スイス、ピエンヌ市立歌劇場と専属契約を結び、多数のオペラに出演。オラトリオ歌手として、ザルツブルク国際モーツァルト週間、アンズバッハ国際バッハ週間、国際シニョッタ音楽祭、など多数の音楽祭に出演している。1994年より、本格的に指揮活動を開始する。同年、東京におけるメサイアでデビュー。1995年ザルツブルク大聖堂での祝典ミサを日本人として初めて指揮。好評を得ず。大阪モーツァルト・アンサンブル、東京アカデミア・シンフォニカなど指揮。1998年横浜モーツァルトアカデミーを結成。音楽監督として過去5回の定期公演、ザルツブルク公演、レクチャーコンサートなどモーツァルトの啓蒙活動を意欲的に行っている。バロックから現代までの幅広いレパートリーをもち、特にモーツァルトの解釈では、内外で高い評価を得ている。現在、ザルツブルク大聖堂専属ソリストの任とともに、所沢バッハアカデミー、横浜モーツァルトアカデミー 両合唱団、アンサンブルの音楽監督、常任指揮者。



小嶋 聖史 (バリトン) Kiyoshi Kojima: Baritone

東京学芸大学A類音楽科と東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院オペラ科と文化庁オペラ研修所第6期生修了。90年第26回日声楽コンクール第2位。平成6年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツ・ブレーメンに留学。ブレーメン大聖堂でのミサやラインガウ音楽フェスティバルにはソリストとして出演し、好評を得る。これまでに中村義春、伊藤直行、木下武久、栗林義信、小松英典の各氏に師事。またドイツではクルト・モル、ユリア・ハマリの両氏に師事。コンサートにおいては芸大在学中に第32回「芸大メサイア」のバス・ソリストをつとめて以来、多くの宗教曲や「第九」等にソリストとして出演。オペラにおいてはオペラ・アリアと「レクイエム」、03年チェコ、プラハ、スメタナホールでのドヴォルザーク「スターバート・マーテル」、05年ドイツ、ライプツィヒ、ニコライ教会でのバッハ「短調ミサ」&、ゲヴァントハウスでの「第九」、06年はオーストリア、ザルツブルク、モーツァルト・テウムと、チェコ、プラハ、エステート劇場でのモーツァルト・ガラを、いずれの公演でもプロデュースから合唱指揮、ソリストもつとめ高い評価を得ている。また2006年4月には、J.S.バッハ「ヨハネ受難曲」が初演されたライプツィヒのニコライ教会での、同曲のソリストとして招かれた。続いて2007年の6月同市の(シュタットフェスト)のフィナルコンサート「第九」、同年12月のニコライ教会での「クリスマス・オラトリオ」にもソリストとして招かれた。09年11月にはブラームス「ドイツ・レクイエム」で再びウィーン楽友協会大ホールに、11年には日独交流150周年記念の「第九」でゲヴァントハウス大ホールにソリストとして出演している。現在、東京音楽大学声楽科非常勤講師、二期会会員、東京室内歌劇場会員。



栗島 和子 (オルガン) Kazuko Kurishima: Organ

国立音楽大学ピアノ科卒業。オペラ、合唱、声楽の伴奏者としての活動とともに、チェンバロ、オルガン奏者としてオーケストラとの共演も多い。ブラジル(サンパウロ)、アイルランド(ダブリン)、ハンガリー(ブダペスト)、ドイツ(ボン)、イタリア(パルマ)など海外公演に伴奏者として同行し高い評価を得る。MFC東京、ソニー・フィルハーモニック合唱団、明治学院バッハアカデミー合唱団、シンフォニエッタ横浜などのピアニストを務めている。NHK学園講師。



メトロポリタン・フロイデ・コア東京 (MFC東京) Metropolitan Freude Chor Tokyo

1999年暮れ、ウィーン楽友協会大ホールでの「第九」が創立演奏会。以降「第九」とオラトリオ、ミサ曲など、古今の合唱の名曲、大曲に取り組んできました。ハイドン「天地創造」、ロッシーニとドヴォルザーク「スターバート・マーテル」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、モーツァルト&ヴェルディ&フォーレ「レクイエム」、バッハ「短調ミサ曲」などを国内ばかりでなく、オーストリア、アイゼンシュタットのエステルハーゼ宮殿「ハイドンザール」で「天地創造」(2001年)、ザルツブルク・モーツァルト・テウム大ホールでモーツァルト「レクイエム」(2006)、チェコ、プラハの「スメタナホール」でドヴォルザーク「スターバート・マーテル」(2003)、「エステート劇場」でモーツァルト「レクイエム」(2006)、ドイツ、ブレーメンの「グロッケ」で「第九」(2001)、ライプツィヒの「ゲヴァントハウス大ホール」で「第九」(2005&2011)、「聖ニコライ教会」で「短調ミサ」(2005)、「クリスマス・オラトリオ」(2007)等を、団員の笑顔とスタッフの情熱で続けてきました。毎回、現地の合唱団とオーケストラ、それに現地のソリストを交えて演奏して積み上げて来たものは何ものにも代え難い宝物です。



所沢バッハアカデミー Tokorozawa Bach Akademie

1997年5月設立。音楽監督の牧野成史氏、ヴォイスレナーの小川素子氏の指導のもと、約60人の混声合唱団として活動。98年より希望者によるザルツブルク公演も行っています。練習曲目にはバロック・古典楽派を中心に幅広く、これまでマニフィカト、カンタータ(バッハ)、モーツァルトレクイエム・第九交響曲・メサイア(モーツァルト版)、戴冠ミサ(モーツァルト)、ドイツ・レクイエム(ブラームス)、バッハ・イヤーの2000年にはメサイア受難曲(バッハ)を取り上げています。年2回、所沢市民文化センター ミュース・アークホールで公演を行っており、これまでクルト・ヴィドマーを始めとする著名な演奏家と共演を行い、好評を頂き、今後も招致を予定しています。また、モーツァルト・テウムのメンバーをコンサートマスターに招き、オーストリアの音を目指します。



横浜モーツァルトアカデミー Yokohama Mozart Akademie

1997年10月設立。音楽監督の牧野成史氏のもと約50名が在籍する混声合唱団です。モーツァルトの教会音楽を中心に、演奏されることの少ない作品なども紹介研究していくことを目標としています。98年5月の創立演奏会ではハ短調ミサ曲を演奏、同年11月第2回定期公演ではドイツの宗教音楽の権威レオ・クレマー氏を招き、レクイエムを熱演しました。98年、99年、00年、01年の夏のザルツブルク公演でも高い評価を受けています。



東京ニューシティ管弦楽団 Tokyo New City Orchestra

首都圏にあるプロフェッショナル・オーケストラのなかで、いま注目を集めつつある東京ニューシティ管弦楽団。音楽監督・常任指揮者には内藤彰を擁し1990年に設立。定期演奏会の他、名曲コンサート、オペラやバレエとの共演、音楽鑑賞教室、レコーディングなど幅広く意欲的に活躍している。定期演奏会では、最新の音楽的な研究成果をいち早く取り入れたプログラミングに定評があり、作曲家が生きていた時代の奏法なども積極的に取り入れるなど、斬新かつ意欲的な内容は常に大きな話題をよんでいる。2006年には旧日本オーケストラ連盟に加盟、2011年には正会員に承認された。2007年には初の中国上海公演を、2009年にはベトナム公演を行い、成功を取った。2010年4月に創立20周年を迎え、さらなる発展が期待されている。<http://tneo.or.jp>



角 岳史 (指揮) Takeshi Sumi: Conductor

島根県に生まれる。東京学芸大学芸術課程音楽科卒業。指揮と作曲を学ぶ。1995年よりウィーンに留学し研鑽を積む。1996年より2009年まで(財)日本オペラレク協会全ての公演において、指揮者または合唱指揮者として、「こうもり」「メリー・ウィドウ」をはじめとする数多くのオペラレクに携わる。2008年より東京オペラレク劇場音楽監督をつとめ、指揮者、演出家として活動。オペラでも、これまで各地の団体でモーツァルトの「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」、ヴェルディの「椿姫」「リゴレット」、プッチーニの「ボエーム」、ビゼーの「カルメン」、フンパーディンクの「ヘンゼルとグレーテル」、團久「夕鶴」などを指揮。1998～1999年シーズンは劇団四季のロングラン公演「オペラ座の怪人」でミュージカル指揮者としても活動。またオーケストラや合唱の指揮者、指導者としても各方面で活躍している。近年では、オペラレクやコンサートのプロデュースなども手がけるほか、オペラやオペラレクの日本語訳詞なども多数発表している。指揮を井崎正治、湯浅勇二、松尾葉子、ヴァリア・カタリン、ルドルフ・ピーブルの各氏に、作曲を青木祐二、吉崎清富の各氏に師事。

